



連載

ビブリア・トーク
—私のオススメ—

… 佐々木貴之 (横浜国立大学)

新企業の研究者をめざす皆さんへ



丸山 宏 著

近代科学社 (2019), 1,980 円 (税込), 232p., ISBN: 978-4-7649-0606-8

私は、民間企業の研究部門にセキュリティの研究者として14年間勤めていました。そのときの経験を元に、丸山宏さんの『新企業の研究者をめざす皆さんへ』を紹介します。学生の方は、将来、研究者になりたいと考えている方もいるかと思いますが、本書のタイトルの通り、そのような方におすすめの1冊です。さらに、研究の本質は、企業でも大学や公立研究機関でも根本は同じかと思しますので、本書は、大学や公立研究機関の研究者を目指す方にも参考になると思います。また、本書は、研究の一連の流れ（問題の選択、問題の解決、研究の出口）に加えて、研究のリーダーシップや知財のマネジメントにも触れられており、すでに研究者になられた方にも有用な1冊だと思えます。

私が企業の研究者になり、苦労したことは、何を研究するかを決めることです。やはり、研究をするのであれば、自分の興味のあることがしたいものです。また、アカデミックの観点からも意義のあるテーマを研究したくなります。しかし、企業の研究部門に勤めているわけですから、研究の成果が最終的には製品やサービスとなり、利益を生み出さなくてはなりません。民間企業の研究部門では、これらの点を明確にして研究計画を立てなければ、研究のGOサインがでないかと思えます。自分の興味、アカデミック的な意義、会社の事業への貢献を満たす研究

のテーマを見つけるのは大変でした。本書の「2章 研究の営み」の中には、研究課題をどう選べばよいかのヒントが書かれています。また、企業の研究部門の場合、研究の最終段階では、製品部門と一緒に仕事をして、技術を事業部門へ移転し、製品化・サービス化をすることも多々あります。私も、事業部門の方々と一緒に、研究の成果をどのように製品に入れて製品の価値を向上させるか、世の中にどう出していくのかを検討していました。このような研究の出口についても2章で触れられています。

将来研究者になろうと考えている方は、研究者のキャリアにも興味があるかと思えます。研究のテーマに関して、私は運良くセキュリティの研究を継続していますが、企業の研究部門に在籍していたときの周りの様子を思い返してみると、会社の事業の方針に応じて研究テーマを変える方や、社内の研究部門以外へ異動する方もいました。また、私は勤めていた会社を退職し、大学に移籍しましたが、このように所属する組織を変える方も多くいました。このような研究者としてのキャリアについて4章で触れられており、これから研究者を目指す方や、若い研究者は特に参考になるかと思えます。

私が担当していた仕事を思い返すと、研究者になって最初のうちは、プロジェクトの一部を担う場合が多いかと思えますが、次第に部下ができ、研究

チームを率いる立場になってきます。このような立場になると、1人で黙々と研究するのではなく、チームとしての成果の最大化が求められてきます。また、上でも触れましたが、企業の研究者の場合は、事業部門と一緒に活動することも多いです。「5章 リーダーシップについて」では、意思決定や人をどのように動かすかについて触れられており参考になります。

以上のように、本書は、研究を進める際や、研究者のキャリアを考える際に、とても参考になるかと思えます。ただし、研究のテーマや研究者のキャリアはそれぞれ異なりますので、本書を読んだとして

も、すぐに解決方法が分かるというわけではありません。本書を参考に、研究や自身のキャリアについて深く考える、このプロセスが研究や研究者人生のクオリティ向上に役に立つと思います。

(2021年6月1日受付)

佐々木貴之（正会員）
sasaki-takayuki-yv@ynu.ac.jp

NEC 中央研究所で14年間システムセキュリティの研究開発に従事した後、2021年4月より、横浜国立大学にてサイバーセキュリティの研究に従事。博士（情報学）。

